

下水道を正しく使おう

毎年9月10日は「下水道の日」です。下水道は、川や海の水をきれいに保ち、私たちの生活をより快適なものにするために必要な施設です。しかし、正しい使い方をしなければ本当の役割を果たすことはできません。正しく大切に使いましょう。

問 下水道課（春日庁舎内） ☎ 74 - 0224

3つの項目に注意

① 生ごみや油など
昨今、下水道管がふさがってしまいうトラブルが多く発生しています。下水道に流せないものを流していることが原因です。特に次の3つの項目は、下水道に流さないように注意しましょう。

① 生ごみや油など

台所から出る生ごみや油などを流すと、下水管を詰まらせるだけでなく、処理施設で十分に処理することができず、川を汚す原因になってしまいます。油は布や紙に染みこませて、燃えるごみとして出しましょう。



② ティッシュペーパーや紙おむつなど

トイレにティッシュペーパーや紙おむつなどトイレトペーパー以外のものを流すと、排水管や下水管を詰まらせる原因になります。水に溶けないものは使わないでください。



③ 雨水

下水道に流せるのは汚水のみです。宅地内の屋根や庭に降った雨水が下水管に流れると、各家庭からの汚水が流れにくくなったり、逆流してしまいます。誤って雨どいが下水管に接続されていないかご確認ください。確認方法は、下水道課にお問い合わせください。

第59回下水道の日 下水道いろいろコンクール

5つの部門で下水道に関する作品を募集します。

①絵画・ポスター部門②作文部門③書道部門④新聞部門⑤標語部門

■応募締切/10月31日（木）※当日消印有効
応募方法など、詳細はホームページをご覧ください。

問 日本水道新聞社下水道いろいろコンクール係 ☎ 03 - 3264 - 6724

HP <http://www.jswa.jp/sewage/contest>



故障したとき・ 雨水が下水道に流れているときは

トイレや排水管のつまりなど簡単な故障はみなさんで修理できますが、手に負えない場合や、雨水が誤って下水管に流れているときは、市に登録のある指定工事店で修理を行ってください。



排水設備指定工事店の一覧はこちら（ホームページ）



井戸水利用者は、使用人数をお知らせください。

井戸水を使用している場合の下水道使用料は、使用人数で算定します。使用人数（世帯人数）を把握できないと、使用料が正しく算定されません。使用人数に変更が生じたら、必ず「井戸水等使用（変更）届」を各支所などへ提出してください。

丹波市 地域おこし 協力隊

地域おこし協力隊の活動を報告します

空き家を生かしたまちづくり

慎 淑恵さん vol.32

経歴：大阪府大阪市出身。大学卒業後、建設会社で住宅の設計に従事。木製イスの製作も経験。

任期：平成 29 年 4 月～



こんにちは。平成 29 年 4 月から地域おこし協力隊として、空き家対策と移住促進のための空き家バンク制度「住まいのバンク」を担当している慎淑恵です。

住まいのバンクは、空き家を「売りたい・貸したい」人から物件情報を集め、空き家を「買いたい・借りたい」という移住定住希望の人などに情報提供し、地域などへの橋渡しをする制度です。平成 27 年 11 月から始まった住まいのバンクでの成約件数は、今年の 4 月には 100 件を超えました。

よく「市内在住でも利用できますか？」というお問合せがありますが、もちろん利用いただけます。TURN WAVE という移住ポータルサイトや春日庁舎・本庁舎でも物件情報を

確認いただけますので、気になる物件情報があればお問合せください。

また、空き家になって間もない物件の成約率が高いため、空き家を所有している人には、できるだけ早めの活用を考え
ていただければと思います。家財がまだ残っていたり、農地が付属している物件でも、ぜひご相談ください。

物件情報サイト
TURN WAVE



春日庁舎 1 階に設置した
物件情報パネル→



豊岡に勤務していた 11 年前、忘れられない一言に出会いました。「挑戦し続けることが青春の特権なら、私はいまだに青春の真只中にいる」。当時、兵庫県立コウノトリの郷公園の園長だった増井光子さんの名言です。

増井さんは女性獣医師の草分けであり、1985 年に日本で初めてパンダの人工繁殖に成功された人物です。1992 年には、女性で初めて東京にある上野動物園の園長に就任され、またご本人は馬術競技の選手でもありました。

その経験と実力を買われて、1999 年、コウノトリの郷公園初代園長として招へいされました。一見物静かな方でしたが、背筋がピンと伸びて凛としたお姿が印象に残っています。

市長コラム 丹波語り

挑戦の人・増井 光子さんから学ぶ



丹波市長谷口進一



市内に飛来したコウノトリ

1971 年に始まった「コウノトリ野生復帰大作戦」では、多くの関係者の努力により、国内で絶滅したコウノトリを再び大空に帰され、その後コウノトリは丹波市にも飛来するようになりました。背景には、増井さんの情熱、ご努力があったことは言うまでもありません。

残念なことに、増井さんは英国での落馬事故により、2010 年 7 月、73 歳で急逝されました。

しかし、これまでの偉業とともに、残された言葉は生涯忘れることはなく、「ノー・アタック！ノー・チャンス！」として私の心の支えになっています。